わ が 街 わ が 故 郷

星の降る里 芦別
北日本精機㈱本社工場と芦別市

1．北日本精機㈱の紹介

＜本社および工場＞

（所在地）　〒079－1371
北海道芦別市上芦別町26－23

当社は1969年８月に炭鉱の街芦別市西芦別町にて誕生しました。エネルギー政策の変化にて、石炭から石油にと時代が流れるとともに炭鉱事業の縮小に伴い、人口の流出防止などを掲げた産炭地振興を受け、社長 小林英一がベアリングディーラーから一転、多くの皆さんの協力を受けながらメーカーの主に転身し、ボールベアリングの生産を開始しました。35年前、数社の国内外先進メーカーとの技術協定により、日一日ごとに一つ一つ技術を積み重ね、1975年に一貫生産ができるまでのボールベアリング工場に成長。以後、小林英一（サッポロプレシジョン㈱社長）の販売戦略の拡大にて、フランジタイプ、薄肉タイプ、極小タイプベアリングと幅を広げ、1984年には現在の上芦別工業団地（55,000㎡）に統合移転し、1985年５月に創業20周年、また1999年10月には創業30周年が過ぎ、現在35期を迎えています。この間には、中国上海に独資の上海精密軸承㈲を立ち上げ軌道に乗せ、一般品を中国、付加価値品を芦別にてと生産のすみ分けを、また北海道の地方都市「星の降る里芦別から世界へ」を合い言葉に、特定寸法品で品質・コストともに世界のトップを目指し、躍進を続けていきます。

本　社

よく、なぜ北海道のど真ん中の「芦別」でベアリング産業が成功しているのかと多くの方から質問を受けますが、小林社長の答えはただ一つ、インフラが整った地方都市（芦別）であれば芦別（地方都市）からでも世界へ発信できるし、北海道の地方都市が大好きだから、「大好きな街」から大きなエネルギーをいただき、感謝しながら、また育てていただいた地域の皆さんに恩返しをしたいと日々全力投球していますと回答しています。

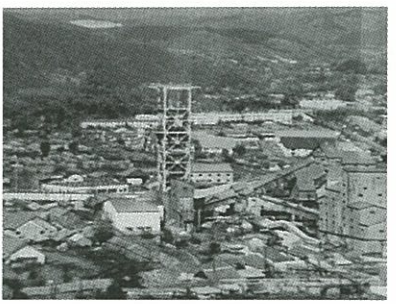
2．芦別市のあらまし

芦別市は、北海道でへそ踊りで、またテレビドラマ「北の国から」で有名な富良野市の隣で、人口約２万人の小高い山々に囲まれた、冬はマ

イナス25℃前後、夏は30℃前後の厳しい自然の街です。５月を迎え草花が咲き乱れるころから８月下旬までは緑豊かで全国的にも有名な「夜空の星の輝き」がすばらしい「星の降る里芦別」です。

芦別の位置

「芦別」の語源は、アシュ（切り立つ）ペツ（河）、つまり両岸の切り立った峡谷の地の意であると言われています。明治26年に佐藤伝治郎が入植して以来、農業・林業・石炭産業を中心に発展してきました。特に石炭産業が栄えたころは、人口が最高７万５千人余りに達しました。しかし、その後はエネルギー革命の影響などから、坑内掘りとして最後の炭鉱であった三井芦別鉱が平成４年に閉山、その後は人口も急激に減少し、冒頭にも書きましたが人口も２万人に減っています。主要産業が厳しい状況におかれた中で、市はこうした状況に歯止めをかけ、街を活性化させるために観光基盤の整備や企業誘致に取り組んでいます。



炭鉱の街　立坑

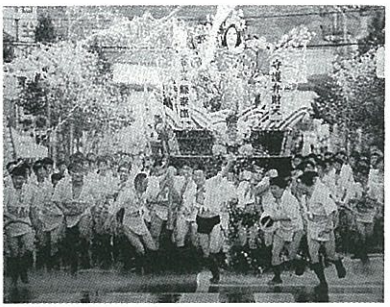
観光面では、「星の降る里芦別」宣言以来、全国各地に本市の特産物を定期的に送る「星の降る里村民」の募集を行い、全国に芦別の名を広めてきました。平成２年には小説「赤毛のアン」の世界を再現したカナディアンワールドをオープン。現在は市営公園として開園しています。星の降る里百年記念館・芦別温泉・星遊館・スターライトホテルなどでの健民センターエリアや、既存の北の京芦別などの充実した施設環境をもとに魅力ある観光戦略を推進。新しく人工ダム（滝里ダム）を建設し、周辺事業としてオートキャンプ場や、滝里ダム資料館をはじめとした湖面活用型のレクリエーション施設も整備しています。

３．「合宿の里構想」

全日本女子バレーボールチームのホームタウン合宿地に認定されたことから、毎年大きな大会（世界選手権など）の前には、監督はじめ全日本女子バレーボールの選手が練習および調整に汗を流しにやってきます。この期間、全国から選手の応援にツアーでやってくる皆さんや、合同練習また同じ場所で汗を流したなどの大学生チーム、高校生チームなどが合宿にやってくることから、「合宿の里構想」を積極的に推進しています。合宿を通した街の活性化にも積極的に取り組んでいます。

４．健夏（けんか）祭りと山笠

札幌では、冬の「雪祭り」や初夏の「よさこいソーラン祭り」が有名ですが、芦別では短い夏の合間に健夏祭りと山笠が行われます。多くの市民が参加する夏の一大イベントです。健夏祭りには、各町内会や企業仲間などグループが参加する千人踊りや花火大会が行われ、また祭りのメインは山笠です。なぜ芦別に山笠なのか



芦別健夏山笠　芦別市

は、昭和59年NHKテレビで特集「熱走！博多山笠」を見た芦別市の青井慎介さん（故人）が、「あの情熱をわが市でも」と思いつきました。当初は我流でしたが、平成元年以降、毎年10人前後が山笠留学して、形式と精神を持ち帰り、今では博多祇園山笠振興会も認知する祭りに成長し、今年15年目を迎えています。ふんどし姿の男たちが駆け巡る姿は本場山笠に引けを取らないほどの迫力です。すべてのエネルギーを爆発させて飲むビールの味は格別…。

5．滝里遺跡群

「滝里遺跡群」は、芦別・富良野両市にまたがり、遺跡は主に空知川およびその支流によって形成された河岸段丘面に立地します。昭和25年ころから畑を水田に切り替える際に、土器や石器が多数出土したらしいのですが、その後調査もされずにきましたが、昭和47年ころから滝里ダムの建設（治水ダム）に向けスタートとともに、測量等を兼ねていくうちに滝里遺跡群が発見され、多くの遺物が発見されてきました。土器は縄文時代中期、後期の北筒、余式市と続縄文時代のものが出土されましたが、器形を復元できるまでにはいたりませんでした。石器などには黒曜石製の槍先、つまみ付きナイフ、石斧、すり石、石皿が見られます。これより北海道芦別の地に3000～4000年以前に人が生活を営んでおり、脈々と受け継がれ今日の芦別があることに驚きを覚えます。こうした状況の中でわが故郷芦別の人々は、「四季の彩り、ふれあいの舞台（まち）」の実現に向けて、豊かな自然を活用した街づくりを進めているところです。

（北日本精機株式会社　魚﨑 賢三）